

東日本大震災の復興支援への取り組み状況

- ・ 報告日：平成 23 年 8 月 6 日（第 2 報）

支部・部会名：近畿本部防災研究会

責任者名/報告者名：防災研究会会長石川浩次

- ・ 取り組みの状況：

1. 中間報告～7月末までの取り組みについて：

・ 現地調査及び現地ボランティア活動の実施：震災発生後から 7 月末日にかけて、近畿本部防災研究会会員である、安東尚美会員（建設）、石川浩次委員（応用理学・建設）、太田英將会員（建設・森林・応用理学・総合技術監理）、西濱晴雄会員（電気電子）、南側晃一会員（建設・総合技術監理）、森川勝仁会員（建設・総合技術監理）達が、各々の所属団体の一員として、3～7 日以上に亘り、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県に赴き、震災状況の現地調査や現地ボランティア活動を実施し、近畿本部、防災研究会内で報告した。

- ・ 近畿支部東日本大震災に関するフォーラムのパネルディスカッション開催（2011・5・14）：パネリスト「石川浩次技術士「東日本大震災の発生～大震災の教訓から防災・減災を考える～」パネリスト 長野恒己技術士「福島第 1 原子力発電所事故から何を学ぶか」中塚勉技術士「福島第 1 原子力発電所事故と我が国のエネルギー確保と CO₂ 削減の課題」講演・話題提供、コディネーター大岡五三實技術士

・ 防災研究会等による 2011 東北地方大震災に関する現地調査報告：安東尚美、石川浩次、太田英將、西濱晴雄、南側晃一、森川勝仁各会員

- ・ 会員による、日本応用地質学会、地盤工学会、神戸大学、関西大学等主催による東日本大震災の復興にむけてのシンポジウム、セミナー、報告会等に参加。
- ・ 東北支部への「東日本大震災に対する支援希望事項」の参画。

2. 今後の支部・部会としての取り組みについて：

・ 石川技術士が宮城県南三陸町から、技術職員からの技術支援の依頼を受けて、去る 7 月 27 日～7 月 30 日の 4 日間、南三陸町役場のお見舞いと当該町内の被災状況等の現地調査を実施した。南三陸町の土木職員は、現状 3 名のみで、街の建設復興業務と復興計画の調整と、進捗管理やランドデザインの素案作成等震災復興推進業務を他の自治体から数名の支援を受けながら推進してきた。南三陸町は町域全体で総計約 970ha が浸水被害を受け、合計約 3,330 戸の建築物被害と 1000 名以上の人命を失った。南三陸町では、今後の恒久的な防災計画を策定中であり、基本的には、標高 20m 以上の高台（現在山林地）に新たに宅地造成を計画している。小職は、当該技術職員への技術支援を行うという立場で、役場が行うべき、南三陸町各地域の震災復興に向けた「土地利用計画」と「土地造成計画」の技術的な支援を行うと言う立場で技術支援活動を行う予定である。この支援活動には、都市計画等の経験を有する支部・部会に所属する技術士の支援を得ながら、推進する予定である。併せて、他の被災自治体への土地造成基本計画業務発注前の意見交換、復興支援活動を予定計画している。